

東由利町報

10/1

No.319 昭和56年10月1日発行 毎月1日発行

昭和56年 No. 319



町の
生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康なくらし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

若さはつらつ、老らも元気 — 第二回ことぶき大学大運動会
若さはつらつ、老らも元気 — 第二回ことぶき大学大運動会が九月十六日、町民グラウンドで行われました。
当日は、久しぶりに終日晴れ的好天に恵まれ、町内九つの老人クラブから六十歳以上の方々、二百二十人余りが参加。
大会は、田代福寿会の渡辺与七さんの力強い選手宣誓で始まり、往年の名選手らは、関所やぶり、びんつり競争、ボール送り、満杯リレー、ホラ吹きゲーム、ゲートボールなどに大ハッスル。一本のヤクルトを仲よく一人で飲みほしぴーとゴールするアベック競争では、応援席からいちだんと大きな声援が送られるなど、おじいさん、おばあさんらは、和やかな雰囲気の中で楽しい初秋の一日を過ごしました。

若さはつらつ

第二回ことぶき大学大運動会

町の社会福祉を高めるつどい

私たちの手で理解と協力を

小野さんら五人が意見発表

私たちの手で社会の理解と協力を一テーマに、「町の社会福祉を高めるつどい」が九日十七日、町開発センタで開かれました。

これは、国際障害者年を記

念し、障害児者の福祉の一層の進展を図るとともに、地域福祉活動の充実強化を期す契機に一と、町社会福祉協議会が主催したものです。

当日は、民生・児童委員、議会議員、教育委員をはじめ、身障者協会、手をつなぐ親の会、母子福祉会、青年ボランティア、老人クラブ、婦人会、青年会、青少年団体連絡協議会(以下「青団連」という)、交通安全協会などから誰もが心豊かで住よい社会福祉の実現のため努力していくことを誓い合つたつどい



東由利町の社会福祉を高めるつどい
私たちの手で社会の理解と協力を

講演
福祉は身近なところ
施設の手渡し会
福井正博

やさしさを隣人に

赤い羽根共同募金に協力を

赤い羽根でなじみの深い「共同募金運動」が、今年も十月一日から始まります。

しあわせでありたいと願う心は、だれでも同じです。しかし、世の中には、自分の力だけではどうしてもそれを果たし得ない人々、例えば恵まれない生活環境にある人、体の不自由な人、ひとりぐらしの老人などがたくさんいます。

昨年度は、全町から八十一萬一千七百五十五円の募金が集まりました。



自らの英知と努力で社会福祉の創造

昼食・休憩のあと、前秋田市高清水寿光園長の佐藤正博

氏の「社会福祉は身近なところから」と題する特別講演があり、最後に、青団連を代表して技能組合青年部長の小松俊博さんが、「高齢化社会への移行と福祉の見直し」というきびしい局面を迎えるある今日、あらためて住民自らの英知と努力による社会福祉の創造が急務となっています。私たち、「国際障害者年」を記念し、誰もが心豊かで住みよい社会福祉の実現を目指し努力していく」と宣言、全員がこれを採択してつどいの幕を閉じました。

こうした人々の福祉は、国や県、町の責任で行われていますが、その一方で、私たちの自發的意志と参加による民間の福祉活動も必要としています。「赤い羽根共同募金」は「助け合い」の住民運動なのです。

年々高まつて来ている社会福祉の要求に応えるには、民間社会福祉事業である共同募金が大きな役割を果たしてお

り、運動の趣旨をじゅうぶん理解していただき、皆さんの積極的なご協力をお願いします。

人の方がそれぞれの体験に基づき意見発表を行い、福祉活動の充実を呼びかけました。

まず玉米小六年の櫛野多代子さんが、「障害者が幸福になるためには、私たちの『愛』と障害者自身の『強い意志』それに、安心して『働く場所』を政治の力でつくつてやらなければならぬのではないか」と発表。続いて東中三年の佐藤幸子さんが、「本当の意味の福祉とは、施設の拡張を望むことではなく、募金とお金をつけ寄付することでもなく、本当に弱い立場

の人々を救い出してやることのできる『やさしさ』を持つことではないだろうか」と訴え、是後に、青

團連の小野孝悦さん(農近ゼミ)が、「国際障害者年の持つ意味と役割は、△健常者は障害者を正しく理解し、その自立を見守り協力してやる△障

害者は自立について考え努力する△そして、同じ人間として平等に待遇され共に生きていくことを確認する」といふたことにあるのではないか。単にお祭り騒ぎで終わってはいけないと結び、それぞれ大好き目立つようになつてほしいと願うのではなく、そこに落ちているゴミを拾うこともボランティアであり、町民みんなの幸福を求め、一人一人がボランティア活動を自

然に考え、ほんの小さなことでも自主的、無償に実施してほしい」と訴え、是後に、青

今年は六一〇メートルを改良

法内線では、今年、四千九百八十万円で、小倉から中の沢間六一〇メートルの改良工事が行われています。

わたしたちは通称「法内線」と呼んでいますが、正式には「県道神岡坂部横渡線」とい

い、仙北郡神岡町から南外村、平鹿郡大森町を経て本町に至る路線です。

同路線の本町分

については、去る昭和四十年に県単独事業として改良工事に着手、その後、特殊改良一種事業、一般改良事業として

今年度の事業が終わると中の中沢地内四八〇メートルの改良工事と、小倉から中の沢間七一十メートルの舗装工事が残ることになります。

同路線はまた、出羽丘陵縦貫道の暫安路線になつており、生活道路としてだけでなく、出羽丘陵地域開発の幹線道路として果たす役割も大きく、関係者は早期完成を待ち望んでいます。



石塚地内（法内）

県道神岡坂部横渡線



小倉～中の沢間

法内小倉の石塚地内一八七メートルの改良総合整備事業として全幅五メートルの改良舗装工事が行われています。

同線はこれまで、幅員二・五メートルと狭く、冬期間に万一火災が発生したり急病人が出ても救急車

石塚地内一八七メートルを舗装改良

土地総事業で整備

自動車が入れない状態で、地域住民からは、早期改良をと
う声が強く出されています。こうした地元の願いが、土地総事業の農道整備として実現をみたもので、降雪前に

ツチで進められています。
総事業費は一千五百二十万七千円を見込み、うち補助金が五五%、残りは起債などでまかなわれるため、地区の負担はありません。

全体事業費に制限があるのは、この事業だけであり、道路改良事業で、その構造は、道路構造令の基準によらないことができることなつていて。

市町村道は、市町村の財政負担を考慮し四千万円までと制限されている。

道路改良一口メモ

特殊改良一種

道路改良一口メモの事業採択の条件としては、雪寒地域として指定され、かつ、建設大臣の路線指定を受けていることが必要である。

第七二号に基づき、積雪寒冷の度が特に甚だしい地域において道路の交通の確保が特に必要であると認められる道路を建設大臣が指定し、△防雪事業△凍雪害防止事業△除雪事業などを実施するもの。

『雪寒地域道路整備事業』

石田代間
六〇〇メートル

県道仁賀保矢島館合線

館合線の石高地内
六二〇メートルは、今年、
六千四百四十万円
で全幅八メートルの改良
工事が行われています。

同線は、仁賀保
町から矢島町を通
り本町八日町の国
道一〇七号線館合バイパス
接点に至る延長五十七メー
トロの

路線で、田代沖田から石高ま
での一、二三〇メートルについては

橋までの一、九四〇メートルは、
今年度新たに「特殊改良一
種事業」として採択になり、
三ヵ年計画で全幅八メートル、車
道幅員六メートルに改良舗装され
ることになりました。



石高地内

石代間

昨年から雪寒地
域道路整備事業
として工事が進
められ、今年度
で改良済となり
ます。

こうしたこと
から町では、石
高から大吹川ま
での未改良部分
についても引き
続き改良工事を
行うよう県に要
請しています。

また、同線の

沖田から川原田
橋までの一、九四〇メートルは、
今年度新たに「特殊改良一
種事業」として採択になり、
三ヵ年計画で全幅八メートル、車
道幅員六メートルに改良舗装され
ることになりました。

黒沢川の一部つけ替えも

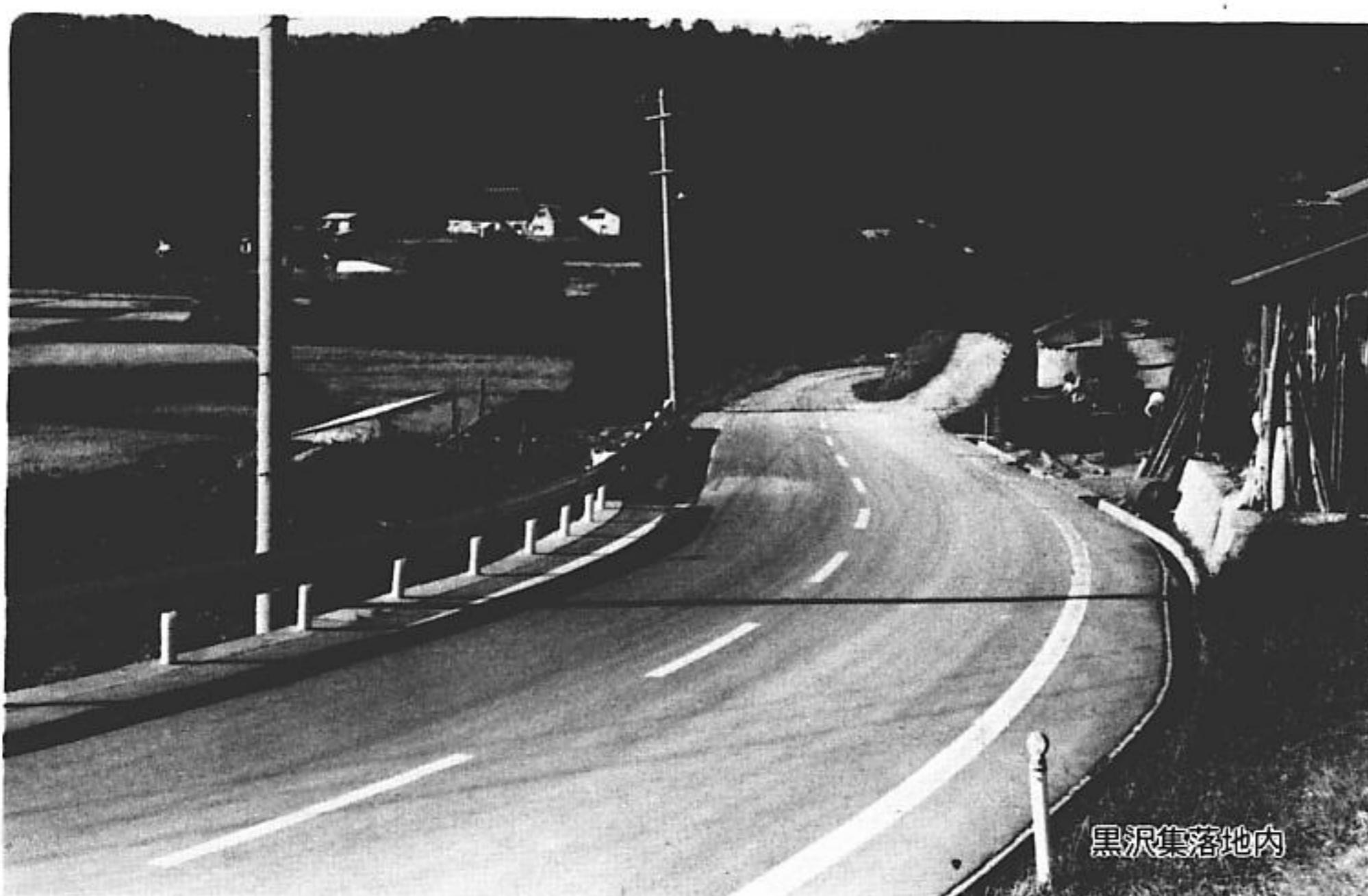
県道樋渕横渡線

け替え工事費として一千五百
円の予算がつきました。この
うち、舗装工事は先ごろ完了
しました。

同線は、昭和五十二年から

横渡から黒沢
を通って大内町
に抜ける県道樋
渕横渡線・通称

黒沢線には今年、
黒沢集落内の舗
装一〇〇メートル、橋
梁一橋、河川つ



黒沢集落地内

県単独事業として工事
が進められており、
昨年までに、横渡、黒
沢地内合わせて五二四
メートルが全幅六・五メートルに改

め、うち四二四メートルが車道幅員
五・五メートルに舗装されました。

同線は、出羽丘陵縦貫道路
線に認定されており、生活道
路としてばかりでなく、沿線

地域の開発発展にとつても
大きな役割を果たすものと
して、一年でも早く全線改
良舗済となるよう、関係
者は望んでいます。しかし、

県単独事業の場合予算的に限
度があり、全線完了に至る
までにはどうしても長い年
月を要することになります。

このため町では、横渡か
ら大内町滝までの未改良舗
装区間を公共事業に採択し
てもらい、早期に全線舗装
済となるよう県や国に要請
しています。

あなたも参加して! 由利町生活文化祭・農協祭

とき 11月1日~3日(農協祭は10/31~11/2)
ところ 開発センター・朋楽荘・公民館・ライスセンター

※詳しいことは別途チラシで!



応援ありがとう

東中プラスバンドがコンクールに初出場したのが四年前……、去年まで三回の挑戦では、いずれも残念ながら地区大会で破れてしま

い、秋田県大会には出場できませんでした。そして今年、中央地区大会での優勝で自信をつけ、県大会でも、夢にまで見た金賞を獲得することができました。県内六十余校（Cクラスの部）の頂点に立ったわけです。

「東由利」の名を全県にとどろかせることになったこの

栄誉は、校史にも永く残るでしょうが、ここまでこれたのは、

今年の出場メンバーの努力は言うまでもなく、父母の方々や

町、学校、それに、卒業していった先輩

諸君の熱意の結晶だと思います。この紙面をお借りして深く感謝するとともに、今後ともいつそうの御指導、御援助をお願いいたします。

部長 小野一志

ぼくは二年生のと



東中が金賞

第二十三回吹奏楽コ

県大会初出場とは思え
ない見事なハーモニー
を披露する東中

シクール秋田県大会が九月四日から三日間、秋田市の県民会館で行われ、初日、中学校Cクラスの部に出場した本町

の東由利中学校が初出場ながらも見事金賞に輝き、その好演奏に大会関係者から大きな称賛の声が寄せられました。

Cクラスの部（二十五人編成）には、県内各地区大会から選ばれたいずれ劣らぬ十九校が出場。それぞれ課題曲と自由曲の二曲を演奏して日ごろの練習成果を競い合いました。

きからコンクールに出場しました。一年生のときの中央地区大会ではBクラスに出場し、

「もう一点」というところで惜しくも銅賞という成績でした。それ以来、「今度は必ず金賞を」と思いこれまでがんばってきました。

苦しいときもありました。

なかでも、今年の三泊四日の合宿。一日中、練習、練習で遅いときは夜十時過ぎまで。あまりにきつい練習で、ぼくは、唇を切ってしまいました。

しかし、練習は一日も休まずがんばりました。

指導には、三条先生のほか由利吹奏楽団の団員の方々も来てくださいました。こうした先生方のご指導とみんなのがんばりのお陰で、今年のコンクールでは今までにない良い成績を収めることができたのだと思います。

中央地区「最優秀賞」、県

大会「金賞」——これは、ぼくにとって一生忘されることのできない、大きな、大きな賞

です。

副部長 木島ゆかり

私たち三年生にとつて最後のコンクールだったので、思ひがけなく「金賞」を手に入れることができました。私としては、こんなにいい成績をとれるとは思っていませんでした。これ

は、一人一人が力を合わせて、今までの練習成果をじゅうぶんに出し切ったからだと思います。

今までの練習の中で特に思い出に残るのは、やはり、夏休み中の合宿での厳しい練習、本荘高校と一緒に練習したことです。今年はとてもついていたのかも知れません。

今までの練習の中でも特に思い出に残るのは、やはり、夏休み中の合宿での厳しい練習、本荘高校と一緒に練習したことです。今年はとてもついていたのかも知れません。

今後は二年生にバトンタッチするのですが、私たち以上にがんばってもらいたいと思います。



初出場ながらも見事金賞に輝き、大きな称賛の声が寄せられた東中の樂士たち



県桐保育管
理コンクール

小番さんが県知事賞

県桐産業振興会の主催する

第四回 秋田県桐保育管理コソ

第二部（林令八年以上）で田代の三浦与一氏（五七）が県桐産業振興会長賞を受賞しました。伝統的工芸品の原材料として良質な桐材の需要は、今後さらに増大するものと期

けるとともに、町単独でも苗木代金の助成や栽培コンクールを開くなど、植栽の振興を図つてきています。その結果、五十六年三月現在での植栽面積は約二百六ヶと五年前のおよそ

いで県内第二位の産地となっています。

昨年一年間の被害件数約二十九万件のうち、約六割を一般住宅が占めています。



先の中央地区大会で最高点で県大会出場権を獲得した東中は、さくに連日猛練習に励みいちだんと腕をみがき県大会では、同校の三条正弘先生の指揮により金賞の賞状とカップを受ける東中・小野一志君

地区大会と同じく課題曲として「イリュージョン（鶴沢正晴作曲）」、自由曲として「序曲・バラの謝肉祭（オリバード・ティ作曲）」を演奏。高まる緊張感の中、明るく照らし出されるステージの上で初出場とは思えない見事なハーモニーを披露して会場いっぱいの観客を魅了しました。

小規模校というハンディを克服し、初出場ながら金賞受賞の好成績は、子供たちに「やればできる」という自信を植えつけさせるとともに、東有利の名を県下に知らしめたものと同校はもちろん、全町民町出身町外在住者にとっても大きな喜びとなっています。

の努力が実つたのだと思いました。その後、県大会でも金賞に輝くなど、東中ブラスバンド部は、一つの伝統を築いてくれました。

こうした中でぼくが感じたことは、「努力」ということの大切さです。努力することによつてすばらしい

「東由利中学校、金賞です。」「瞬わが耳を疑つたが、二階席に陣どつた生徒たちから、「ウワーやつた、やつた」の大歓声があがつた。本当に『やつた』のだ。父母たちもお互いの肩をたたきながら喜び合う。応援にかけつけてくれた小鳥先生

おめでとう

学校長 斎藤治三郎

ドキドキするが、演奏し終わつたときはなんともいわれない気持ちがする」

「——これらは、コンクールに
出場した生徒たちのささやき
の一部です。」

県大会初出場で金賞の栄誉
を勝ち得たことは、生徒の素
質はもちろん、指導にあたつ
た三条先生と生徒、父兄がお
互い信頼し合い、情熱を持ち
たゆみない努力の成果がここ

に実を結んだものと思ひます
生徒諸君には、この感激を忘ることなく、自分の可能性を信じ、さらに前進、雄飛していくつてほしいと希望します
また、ここまでこれましたのも、町当局、議会、教育委員会の物心両面にわたるご援助の賜と、紙面を借り心から感謝申し上げるしだいです。

日練習——というハードスケジュールをこなしてのコンクール出場でした。

です。プラスバンド部は、それをぼくたちに教えてくれたと思ひます。

吹奏楽部父母の会会長

小松久隆

のがあつたようだ。
日ごろの猛練習が実を結び、見事、県大会初出場で金賞獲得の快挙をやつてのけたのだ。

子供たちの努力をたたえるとともに、三条先生の熱心なご指導と町当局並びに学校のご理解、先輩諸氏の助言と励まし、父母の会の皆様のご支援に心からお礼申し上げます。



県桐産業振興会長 賞を受賞した三浦 さん

お宅の 防犯チエックは?

行楽の秋。家族そろつて出かける機会も多くなりますが留守宅のカギはかかっていま

全国平均でみますと、約一分五十秒ごとに、一般住宅や事務所、店舗などが、いわゆる侵入ドロボウの被害にあい一件当たり約十万円の損害を被っています。

居空き……在宅時に侵入する
十月十一日から二十日まで
「全国防犯運動」が行われま
す。この機会に、もう一度、
わが家の防犯チェックをお忘
れなく――。



明るい町づくりは体力づくりから——雨で一週間延期された第十三回町民運動会は、八月三十日台山グラウンドで行われました。

しかし、この日も、開会二時間余りで激しい雨に見舞れ、競技途中で中止に負けじと頑張つたが、結局、途中で中止に

競技途中で中止 雨に見舞れた運動会

キノコ採りによる 遭難事故防止を

止をよぎなくされました。昨年は雨で中止、今年は春の球技大会につづいて途中中止に、関係者は雨をうらむことしきり。

こうした悪コンディションにもかかわらず、団員らの希望もあつて町消防団分団対抗リレーは行われ、選手らは消防精神をいかんなく發揮、雨にも負けず、風にも負けず、泥にまみれながら気合いの入つ

全町的視野で町づくり 「広報バス」を運行



町では、八月三十一日から九月十日までの間に七回にわ

たり、「福祉バスによる「町づくり広報バス」を運行、好評

雨に見舞れ車から降りることにはできませんでしたが、車内では、「昔はこの道を馬を引いて……」「ここが隣りの母さんが来た部落」「この峠は昔、キツネが出るといわれ……」といった話が聞かれ、時代の

百聞は一見にしかず”——参加者にとつては、まさに「ふるさと再発見」の絶好の機会になつたようです。

いま東由利は大きく変わりつつあり、町では、来年以降もこの“広報バス”を運行することにしています。

た競技を繰り広げていきました。

遠藤タカ子
(新
処)

「広報バス」に参加して

私は、九月八日に部落の母さん方と一緒に参加しました。この日は、前日までぐづついていた天気もカラリと晴れ上がり、同乗者も顔なじみの松柴部落の方たちで、嬉しい思いでバスに乗り込みました。

町内を一周してみて私は、平坦部、山間部を問わず道路がよく整備されていることに驚きました。特に、今年の春に全線舗装済となつた

を得ました。

これは、町内の公共施設や道路状況等を実地にみてもらおうと、今年初めて企画したもので、二十三自治会から約二百人が参加しました。

毎回、午前八時半に町開発センター前を出発のあと、案内役として同行した役場小松総務課長らの説明を聞きながら、法内、黒沢、大台、沼、土場沢、須郷、石高、泡の渕、新沢、松柴等の順路で町内を

ほぼ一巡。七回のうち五回が雨に見舞れ車から降りることにはできませんでしたが、車内では、「昔はこの道を馬を引いて……」「ここが隣りの母さんが来た部落」「この峠は昔、キツネが出るといわれ……」といった話が聞かれ、時代の

百聞は一見にしかず”——参加者にとつては、まさに「ふるさと再発見」の絶好の機会になつたようです。

いま東由利は大きく変わりつつあり、町では、来年以降もこの“広報バス”を運行することにしています。

た競技を繰り広げていきました。

流れ、町の発展ぶりを感じさせていました。



渡辺久一
(下小路)

小学生との差の大きさに、統合問題を早期に解決して新校舎建設の必要性を感じたのは私一人だけだろうか。

また、小集落の集会施設に参加して私は、道路の建設も進み、大琴等大集落にも建設されているが、老方、館合に未建設であるのは、町財政の現状では将来の問題とせざるを得ないだろうと感じた。

八年三十一日、施設めぐりに参加して私は、道路の改良が進んでいることに感心した。特に農免農道根小屋線は、風光明媚、路面も国際一〇七号線の一部地区以上で、雄勝方面から空港に至る最短路線として、また観光道路として、関係路線の整備とともに関係の町にも働きかけが必要でないかと感じた。

公共施設の建設も進み、すばらしい大琴小学校校舎とプール施設を見て、他の町づくりが大きく前進しているのを自分の目で確かめ、関係者のご苦労に感謝するとともに、明るく住みよい町となるよう町民の努力の必要を痛感させられた。

十年ぶりで帰り、今回、町づくりが大きく前進しておられたときには、私が先生だと、新たな発見の喜びを語っていました。

十年ぶりで帰り、今回、町づくりが大きく前進しておられたときには、私が先生だと、新たな発見の喜びを語っていました。

米は低カロリーの“美容食”

—— 食べると太るはウソ

日本人の主食——米の消費量は、昭和三十七年の年間一人平均百十八・三キログラムをピークに、以後、年々減少の一途をたどっています。

そもそも新米の出回る季節となりました。日本人の主食——米の消費量は、昭和三十七年の年間一人平均百十八・三キログラムをピークに、以後、年々減少の一途をたどっています。

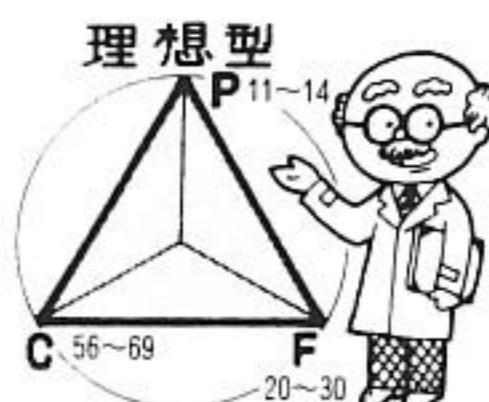
しかし、米は自給力一〇〇%のうえ、栄養価は高く、わたくしたち日本人の主食としては、これ以上のものはありません。

日本は、昔から「みずほの国」(瑞穂)——みずみずしい稲の穂)という言葉があるほど、わたしたちは米づくりに適した風土の中で米を中心とする独自の文化を築きあげてきました。

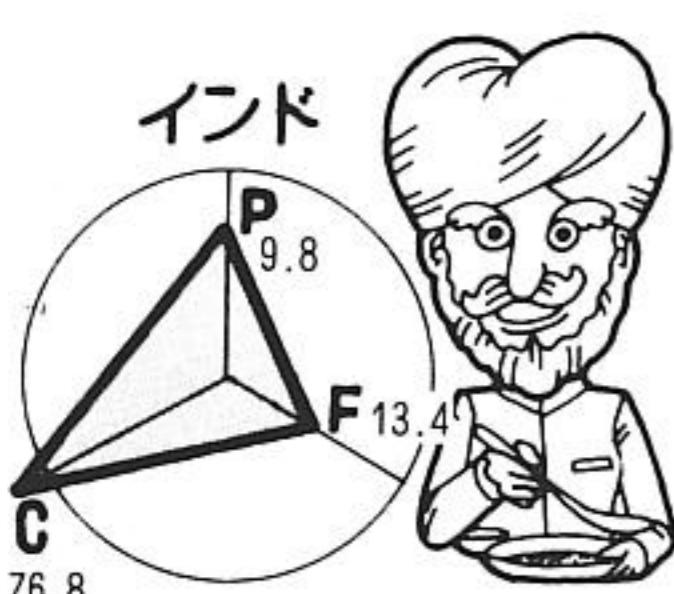
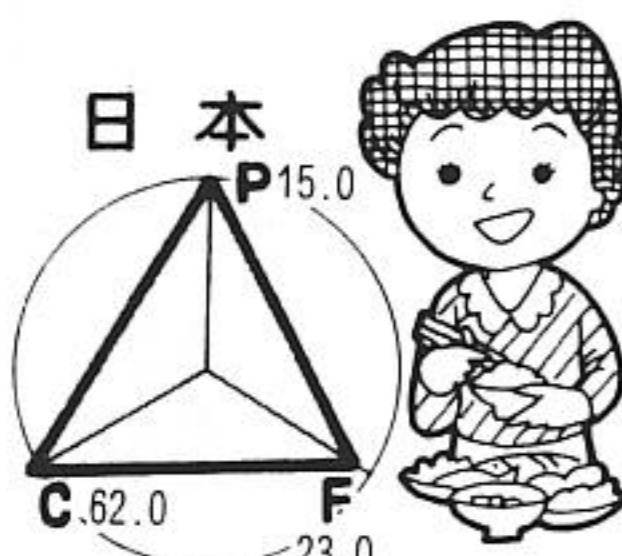
新米の季節をむかえ、米を中心とする食生活のよさ、米との上手な“つきあい方”をいま一度見直してみたいものです。

日本人の 栄養バランスは理想的

栄養バランスの基本は、タンパク質(P)と脂肪(F)と炭水化物(C)の摂取量の比です。そのバランスを見るのがPFCカロリー比で、日本人の食事は、まさに理想的といえましょう。それは“米”を主食にし、これにタンパク質や脂肪が補えるよう食事の内容を自由に組み立てることができます。また米は和食はもちろんのこと、洋食、中華料理など、どんな料理にもよくなじむことも利点となっています。それでは、外国との比較をイラストで見ましょう。



理想型
P11~14
C56~69
F20~30



〔資料〕食糧庁「データによる日本の食糧」

見直される米

そもそも新米の出回る季節となりました。

日本人の主食——米の消費量は、昭和三十七年の年間一人平均百十八・三キログラムをピークに、以後、年々減少の一途をたどっています。

しかし、米は自給力一〇〇%のうえ、栄養価は高く、わたくしたち日本人の主食としては、これ以上のものはありません。

日本は、昔から「みずほの国」(瑞穂)——みずみずしい稲の穂)という言葉があるほど、わたしたちは米づくりに適した風土の中で米を中心とする独自の文化を築きあげてきました。

新米の季節をむかえ、米を中心とする食生活のよさ、米との上手な“つきあい方”をいま一度見直してみたいものです。

米：百四十六キロカロリー

即席やきそば：五百二十キロカロリー

チヨコレート：五百二キロカロリー

食パン：二百六十五キロカロリー

牛乳：五百二キロカロリー

このように、米は決してカロリーの高い食品ではないことがわかります。

米を中心とする食事の場合には、米が低カロリーなのでバナナに富んだ副食を食べてもカロリー・オーバーにならずに栄養のバランスをとることができます。

米の成分を見ると、精米百グラム(茶わんに軽く一杯分)中に含まれる主な成分は、デンプン質(糖質)七五・五グラム、タンパク質六・八グラムなどです。

米は、昔から日本人の重要なタンパク質源であり、現在でもタンパク質の五分の一を米から摂取しています。

また、米に含まれるタンパク質は、他の成分に含まれるタンパク質と比べても、たいへん優れています。

タンパク質の人体内での利用効率を示すプロテインスコア(数値が高いほど質が良く、体内で効果的に利用される)で見ると、理想タンパク質源といわれるタマゴ一〇〇に対し

これらの数字を見ても、米は経済的で良質のタンパク源といえるでしょう。

米食を中心とした食生活、ア(数値が高いほど質が良く、体内で効果的に利用される)で見ると、理想タンパク質源といわれるタマゴ一〇〇に対し

て、米は七七を示しており、牛乳の八〇、牛乳の七四とほぼ肩を並べています。また“畑の肉”といわれる大豆の五五よりも高く、米のタンパク質は穀物の中でも最も質のよいものといえます。また、米のタンパク質の中には、子供の成長に欠くことのできない栄養素「リジン」を多く含んでいます。

タンパク価は

牛肉・牛乳とほぼ同じ

これができます。これが、欧米のように肉中心の食事だと、肉自体のカロリーが高いため、ついカロリーのとり過ぎということになってしまいます。

こうした点から、欧米では米を中心とする食生活が見直され、「日本食ブーム」が起きてみましょう。



こつているほどです。
“美容食のもと”米を食生活の中に考えてみてはいかがですか。

下郷分校が四種目制す

県全日制分校体育大会



級友らの声援を受け、熱戦を繰り広げる県全日制分校体育大会

秋田県高等学校全日制分校
体育大会が九月一日、今年も本町を会場に開催され、本町の本庄高校下郷分校は、バレーボールで男・女アベック優勝を果たしたのをはじめ、野球、バドミントン、合わせて四種目を制する大活躍をしました。

この大会は、県内に七校ある全日制分校の生徒が一同に集まり、交流試合を通してお互いの実力向上を図り親ぼくを深めようと、昨年から開いているものです。

大会には、下郷分校をはじめ、矢島高の笹子、羽後高の高瀬、湯沢高の稻川、大曲農の大森・太田の六分校から

約六百人が参加。各校選手は、級友や先生たちの応援を受け、野球、ソフトボール、バレー、ボードミントン、卓球の五種目に熱戦を繰り広げました。

各種目の優勝校は次のとおりです。

【男子】 ▽野球＝本庄・下郷
▽バレー＝ボール＝同・下郷
▽卓球＝矢島・笹子

【女子】 ▽ソフトボール＝羽後・高瀬
▽バレー＝ボール＝本庄・下郷
▽バドミントン＝高瀬

▽卓球＝羽後・高瀬

▽バドミントン＝本庄・下郷

▽バドミントン＝高瀬

▽バドミントン＝本庄・下郷

▽バドミントン＝高瀬

今秋の冷気は早い感じがします。出稼の季節を間近に迎えて、悪天候のため農作業も遅れたり何かと忙しい時期となりました。役場も本年度事業は、雪の降る前に、又出稼前にと大童あります。

あります。

出羽丘陵開発事業による草地造成は、土地の選定、参加農家のアンケート、営農形体の検討とアウトライ

ンの設定は出来たものの、一つ一つの詰めの作業はこれから入る訳です。目標は出稼前に参加者の仮同意までの作業を完了することですが、問題の最たるもののは、経営体と採算性であります。

余談であるが、同部落の小笠原謙一氏所蔵の古文書の中に「筒場」と書いたのがあるが、これはどう考

たらしいのだろうか。氏は筒の中に入つたような、せまい沢だからでないかとの見解だつたが……別に「文内」と書いた記録もある。

地名とは不可解なものとの感を強くする。

ついで多くの議論が出ると思いますが、低米価、減反は否定し難い現実であり、本町の米に替るのは畜産である以上、出羽丘陵開発事業は、是非共成功しなければならないし、成功させなければならぬと考えています。

由利日記

東由利の地名

= 16 =

土場沢は地味が肥え、北風もあり当らないので、さまざまな木々が豊富で、家や舟材、薪・炭など年貢（山守）がいて見廻り管理し、農民は自由に自家用にすることを、禁じられていた山が多くあつた。としてなどの、木材の土場（切り倒し）を一時集めておく場所なのでなかつたろうか。土場沢の地形からみて、峠を越して大琴に出すよりも、土場沢川の流れを利用して杉森に出す方が楽だつたと

土 場 沢

沢シリーズ⑤

面白いことに、土場沢の上に小字名の山林・高林があり、下には坂の下・才の神・バチ沢があつて、矢島領の杉森に続いているが、バチ沢の小字名などは、木材をバチ櫛（バチ櫛）にの

思われる。

（畠山昭一）

ものである。したがつて土場沢上流の小字名の水頭・大水頭を源とする流れを利用した方が、峠を越すよりはずっと楽なのでなかつたか。

余談であるが、同部落の小笠原謙一氏所蔵の古文書の中に「筒場」と書いたのがあるが、これはどう考

たらしいのだろうか。氏は筒の中に入つたような、せまい沢だからでないかとの見解だつたが……別に「文内」と書いた記録もある。

地名とは不可解なものとの感を強くする。

岩手に視察に行きました、一つの経営体でも可能と思いまますけれども、現在七つの経営体ではと考えています。今後、組織と採算性に

あれば、本町に於ても、全町一個の経営体が、百町歩単位の経営をしておるのを見

10月 のこよみ

曜日	行事
1 木	9月定例議会(9/29~10/3)
2 金	
3 土	
④ 日	
5 月	インフルエンザ予防接種(~6日)
6 火	民生委員協議会
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	体育の日
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	三種混合・二種混合予防接種 青少年劇場(東中体育館)
17 土	
18 日	
19 月	ことぶき大学
20 火	1歳6ヶ月児検診
21 水	3歳児検診
22 木	
23 金	1歳6ヶ月児検診
24 土	
25 日	母子・父子家庭のつどい
26 月	
27 火	インフルエンザ予防接種 農業委員会
28 水	
29 木	秋田県食糧基地推進大会
30 金	
31 土	朴の木沢放牧場開放 生活文化祭展示作品搬入・審査 11日~17日 行政相談週間・違反建築防止週間 31日 町県民税(3期)・固定資産税(3期)納期
摘要	

阿部恵理子 長谷山哲也
小倉一郎 石高喜悦
長女 長男

慶弔だより
8月21日~9月20日
故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

社福だより

香典返しとして、故鎌田トキエさんのご遺族(鎌田徳太郎さん、黒沢)より三万円が届けられました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

薬は両刃の剣

10/17~10/23薬と健康の週間

おしゃせ

町の概要
人口総数 6,342人
うち男女数 3,126人
うち世帯数 3,216人
面積 1,449ha
148.51km²
(56.8.31現在)

で申し込んでください。

原稿審査に通過された方は
秋田県大会に出場していただきます。

参加資格

昭和31年1月
16日から昭和41年4月1日まで
に生まれた方。

青年の主張全国コンクール・原稿募集

NHK秋田放送局

NHKでは、次により「第28回NHK青年の主張全国コンクール」の出場者を募集しています。

進学は毎日獎

出場ご希望の方は、五つの課題の中から一つを選び、五分以内で意見を発表できるよう四百字詰原稿用紙四枚程度にまとめ、10月23日(金)まで

毎日新聞社では、働きながら自力で首都圏の大学、各種学校へ進学を志す学生のた

めに奨学制度を設けており、現在、来年度の奨学生を募集しています。この制度は、学費、生活費などの一切の面倒をみて、学

生が安心して学業に専念できる制度です。

詳しいパンフレット希望の方は、ハガキに住所、氏名、高校、電話番号を記入のうえ、

左記へお問い合わせください。

・〒106 東京都新宿区大久保三ノ一四ノ四 每日新聞社
早稲田別館 每日育英会K
係(電話)〇三一二〇九一一二二)

結婚

佐藤新宿秀男長男
古関郁実横小路幸助三男
小笠原秀典祝沢久雄二男
柴田栄美子第三新田長清長女
須郷田和尋二女
遠渡小杉野賢一
藤辺野文子
益仁子
時雨山横渡
宇戸坂

出
か
せ
ぎ
と
國
保

加入したら

異動の無届は

国保の資格異動の届出は原則として異動の発生した日から十四日以内ですが、特別な理由の無いままで一ヶ月以上も経つてから届出をされると事務に大きな支障をきたすために、国保法一二七条の規定により過料処分の対象とされることがあります。

届出は病院にも

届出が必要なのは役場の外

就労先事業所が社会保険の適用を受けない場合に限り、特保険証を交付しますので就労前に必ず事業所の方へ社会保険適用の有無を照会しておいて下さい。

特保険証の発行

就労中にケガ、病気をした場合は労働災害の適用を受けます。又、第三者によつて傷害を受けた場合(交通事故、ケンカ等)、国保は使えません。

その他注意事項

に、かかりつけの病院の方へも同時にしなければなりません。これをしないで国保の資格を喪失後に受診されますと

病院の方では従来の国保資格のまま取り扱いますので、後日役場の方へ保険診療分(総医療費の七割分)を不当利得、又は不正利得として返還しなければならなくなります。

なものは、国保の保険証、ハ

ンコです。

